

# ASIA Indicators

定例経済指標レポート

## ベトナムは3年ぶりの利下げを実施 (Asia Weekly (3/12~3/16))

~韓国では求職者数の増加で失業率は予想外の悪化~

発表日: 2012年3月19日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

### ○経済指標の振り返り

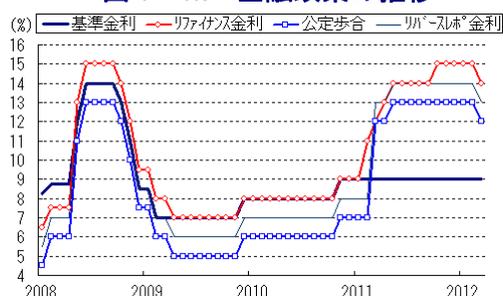
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
3/12 (月)	(マレーシア) 1月鉱工業生産 (前年比)	+0.2%	+0.9%	+2.9%
	(インド) 1月鉱工業生産 (前年比)	+6.8%	+2.1%	+2.5%
	(ベトナム) 金融政策委員会 (リファイナンス金利)	14.00%	--	15.00%
3/13 (火)	(フィリピン) 1月輸出 (前年比)	+3.0%	▲18.5%	▲18.9%
	(香港) 10-12月鉱工業生産 (前年比)	▲2.2%	--	+0.2%
3/14 (水)	(韓国) 2月失業率 (季調済)	3.7%	3.2%	3.2%
	(インド) 2月卸売物価 (前年比)	+6.95%	+6.70%	+6.55%
3/15 (木)	(シンガポール) 1月小売売上高 (前年比)	+1.7%	▲1.3%	+4.3%
	(インド) 金融政策委員会 (レポ金利)	8.50%	8.50%	8.50%
	(リバースレポ金利)	7.50%	7.50%	7.50%
	(現金準備率)	4.75%	4.75%	4.75%
	(フィリピン) 1月海外労働者送金 (前年比)	+5.4%	--	+6.2%
	(タイ) 1月輸出 (前年比)	▲6.0%	+0.0%	▲2.0%
3/16 (金)	1月輸入 (前年比)	▲4.2%	+6.4%	▲19.1%
	(シンガポール) 2月非石油輸出 (前年比)	+30.5%	+16.2%	▲2.4%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

### 【ベトナム】 ~インフレ率が低下するなか、景気刺激のため3年ぶりに金融緩和を決定~

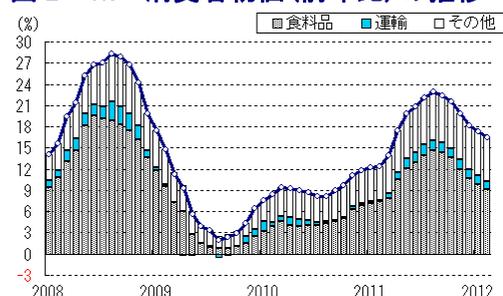
12日、ベトナム国家銀行(中央銀行)は緊急の金融政策委員会を開催し、政策金利であるリファイナンス金利と公定歩合を100bp引き下げ、それぞれ14.00%、12.00%とする決定を行った。同行が金融緩和に踏み切るのは約3年ぶりとなる。国内銀行の貸出金利の基準となる基準金利は9%に据え置かれたものの、ドン建預金金利の上限は14.00%から13.00%に、非定期性預金と期間1ヶ月未満の預金金利の上限も6.00%から5.00%にそれぞれ引き下げることが決定した。同国では消費者物価上昇率が一時20%を上回るなどインフレ懸念が高まったことから、金融当局は2009年末以降金融引き締めを進めており、2月のインフレ率は前年同月比+16.44%に減速している。昨年の経済成長率は前年比+5.9%と前年(同+6.8%)から減速したものの、高金利によりさらなる景気減速も懸念されたため、当局は景気刺激に踏み切った。インフレ率は低下しているものの、依然当局の望ましい水準(一ケタ%)には程遠いなか、原油価格の上昇や海外資金の回帰による過剰流動性が物価上昇圧力となることも懸念される。当局は先行きにおける追加的な金融緩和を示唆しているが、物価動向に注意しつつ慎重な政策対応が望まれる。

図1 VN 金融政策の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 VN 消費者物価(前年比)の推移



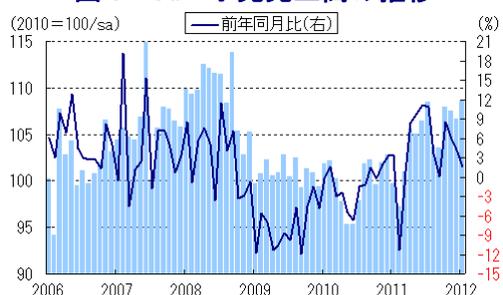
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### [シンガポール] ～雇用の堅調を背景に個人消費は底堅さが続き、輸出も緩やかに増加している～

15日に発表された1月の小売売上高は前年同月比+1.7%となり、前月(同+4.3%)から減速した。ただし、前月比は+1.7%と前月(同▲0.7%)から増加に転じており、自動車販売が同+9.9%増加したことが全体を押し上げた。なお、自動車を除いたベースでは前月比▲0.5%と前月(同+1.3%)から減少したものの、足下の堅調な雇いを背景に高額品需要に底堅さがみられる。

16日に発表された2月の非石油輸出は前年同月比+30.5%となり、前月(同▲2.4%)から加速した。石油輸出も前年同月比+36.2%と前月(同+9.5%)から加速し、再輸出を含めた総輸出額も同+25.2%と前月(同▲4.2%)から加速した。前月比も+1.5%と7ヶ月連続で増加しており、アジア新興国の底堅い需要が輸出を下支えしている。一方の輸入額は前年同月比+26.5%と前月(同+8.4%)から加速したものの、前月比は▲11.7%と前月(同+23.1%)の反動が出た。結果、貿易収支は+56.03億SGドルと前月(+11.94億SGドル)から黒字幅が拡大した。

図3 SG 小売売上高の推移



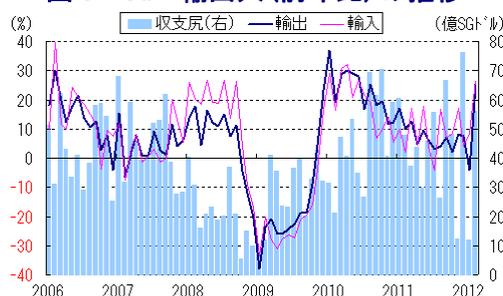
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 SG 雇用環境の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 SG 輸出入(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### [韓国] ～景気底打ちの兆しが窺えるなか、求職者数の増加を反映して失業率は悪化～

15日に発表された2月の失業率(季調済)は3.7%と前月(3.2%)から0.5p悪化し、昨年3月以来の高水準となった。昨年後半以降は国際金融市場の混乱や景気減速によって求職者数が減少してきたため、失業率は低位に抑えられてきたが、足下の金融市場の落ち着きを背景に2月は求職者数が増加しており、失業率は悪化

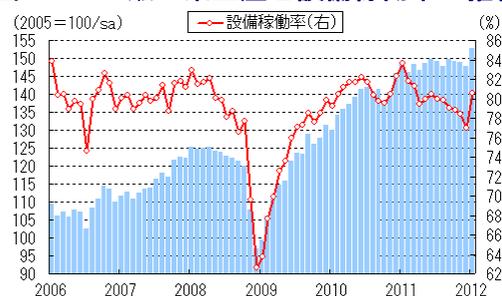
した。なお、雇用者数は前月比+13.1万人増加しており、業種別では製造業に堅調さがみられるなか、雇用形態別でも正規、非正規雇用者ともに増加している。一方、失業者数は前月比+12.1万人と前月（同+4.8万人）に続いて増加しており、サービス業での雇用調整圧力が高まっている。なお、足下では製造業を中心に生産に底打ちの兆しも窺えることから、先行きの雇用環境は底堅さが続くと思込まれる。

図6 KR 雇用環境の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図7 KR 鉱工業生産と設備稼働率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### 【マレーシア】～春節の影響で生産は減速するも、内需の堅調は先行きの生産を下支えしよう～

12日に発表された1月の鉱工業生産は前年同月比+0.2%となり、前月（同+2.9%）から減速した。前月比も3ヶ月ぶりに減少しており、中国の春節入りによる輸出の下押しが影響した。全産業で生産は縮小しているものの、アジア新興国におけるエネルギー需要の堅調を背景に鉱業部門は底堅い。足下では公共投資の拡充や資源価格の上昇による交易条件の改善で内需も堅調に推移しており、先行きも生産は堅調に推移しよう。

図8 MY 鉱工業生産の推移

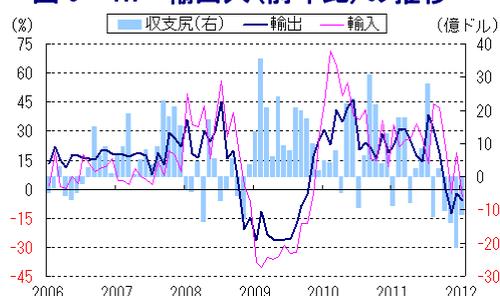


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### 【タイ】～春節の影響で輸出は予想外に縮小するも、復旧・復興に伴う支援物資需要に一巡の兆し～

15日に発表された1月の輸出額は前年同月比▲6.0%となり、前月（同▲2.0%）からマイナス幅が拡大した。春節の影響で中国及び香港向け輸出が大きく落ち込み、アジア新興国向けなどに下押し圧力が掛かった。一方の輸入額は前年同月比▲4.2%と、前月（同▲19.1%）からマイナス幅が縮小した。ただし、前月比は減少しており、洪水からの復旧・復興に伴う物資需要は一巡しつつある。結果、貿易収支は▲413.69億ドルと前月（▲729.31億ドル）から赤字幅が縮小した。

図9 TH 輸出入(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以上